

私が望むこれからの長野県

～新たな総合5か年計画策定に向けて～

長野県短期大学

平成23年11月23日

1

1班：やっぱり離れられない。～過疎地の中心で愛を叫ぶ～

2班：健康の地。長野

3班：Know Yourself

～外国人にとって住みやすい県にするために～

4班：若者視点を活用した県づくり

2

1班: やっぱり離れられない～過疎地の中心で愛を叫ぶ～

現状・課題

●現状: 町に元気がない。

⇒基礎的な課題と各方面への影響

①商業

・シャッター商店街。物価が高い。スーパーやお店が少ない、または遠い。

年金で暮らしている高齢者には不便な生活…

②工業

・後継者不足。仕事がない。地元で就職できるのか就職への不安。

若者が暮らしにくい…

③教育

・学力問題(近くに塾がないため学校での勉強が全てで学力が担任の力量に依存する。)

子ども、学生が学びにくい…

・長野県に大学が少ない。県外に進学して県外に就職してしまう。

3

④その他

- ・都会と田舎との情報格差。
- ・老々介護。老人の孤独死。
- ・交通の便が悪い。(車移動をせざるをえない)

⇒町に元気がない現状に共通する点: **人がいない。**

・伝統を受け継ぐ後継者がいない→文化・伝統の衰退

・子どもが少ない。若者がいない。結婚相手が見つけにくい。医者がない。

※人がいなくなり、①～④などの各方面に悪影響を与えた結果…

町に元気がなくなっている！！

4



取組・方策

「住み慣れた土地で暮らしたい」と思える
地元愛が育まれる環境♥

◎取組：過疎地ならではのいいところを活用し、①～③等各方面の取組により、町を元気にする。

○過疎地ならではの良いところ

・安全。お年寄りが元気。地域(近所)との結びつきが強い。

①商業

- ・商店街に統一感をもたらし、コアなファンを呼び込む。
- ・町の有名なもの、おいしいものを活かす。
- ・おばあちゃんの味、昔ならではの様々なものをお年寄りに教えてもらう。

②工業

- ・退職後に戻れる体制づくり。お年寄りならではの仕事をする。
- ・若者の仕事を増やす。

③教育

- ・県内大学進学への支援(県内就職に有利、入学金・授業料などの県民割など)

5



目指す姿(キャッチフレーズ)

やっぱり離れられない。
～過疎地の中心で愛を叫ぶ～

6

2班 健康の地。長野

7

現状・課題

私たちが好きな観光地には
善光寺、上高地、軽井沢、安曇野、戸隠
などがあげられる。

魅力がある観光地が多い一方で
「長野と言えばこれ！」というものが無い。
パッとする観光地が少ない。
南信の観光スポットが少ない。
お年寄り向けのスポットが多く若者向けが少ない。



8

観光にインパクトがない



インパクトがない観光に「健康長寿」のもとである「ストレスフリーな生活」という長野の強みの部分を取り入れていく。

長野の強み

健康にいい食べ物が豊富(寒天、自然のきのこや山菜などの山の幸、そばなど)

自然の豊かさ(星がきれい、空気がきれい、山がきれい、景色がきれい、紅葉がきれい、温泉が豊富など)

9

取組・方策

「健康の地 長野」を体験してもらうための取組

そばうち体験、山菜やキノコ狩りツアー、かんでんぱツアーなど。

長野の自然を体験してもらうための取組

森林整備ボランティアツアー、かぶとむし捕まえようツアー、温泉を楽しめる温泉村の設置、森林にアスレチックを増やすなど。

丸ごと体験で健康になってもらうための取組

長野の食べ物から自然まですべてを体験できるツアー、スキーと温泉のセットツアーなど。

10

目指す姿

- 心身の健康
- 長野を観光しながらの健康

キャッチフレーズ

健康の地。長野

11

3班: Know Yourself ~外国人にとって住みやすい県にするために~

外国人にとって住み良い県って？

外国人だって同じ人間！

彼らにとって住みやすい県は、私たちにとっても住みやすい県！

まずは私たちの視点から、現状を考えてみる。

問題点

1 交通の不便さ

- ・電車の数が少ない。
- ・駐車スペースが少ない。

2 安全性の問題

- ・街灯が少なく夜歩くのが怖い。
- ・歩道が狭く危ない道路がある。

3 活気がない

- ・駅前に遊ぶ場所が少ない。
- ・オリンピックを生かし切れていない。
- ・地域産業に元気がない。

4 情報不足

- ・長野県の良いところ、悪いところを知らなすぎる(長野県民という意識が薄い)。
- ・県や行政の情報(森林づくり県民税や長野県短期大学4年制化など)が伝わってこない。

これらの問題は外国人にも共通する問題。

12

皆にとって住みやすい県をつくる

取り組み・方策

1 便利な町

- ・試験的に電車の本数を増やす。
- ・駐車場スペースを確保する。
- ・道路に名前を付ける。

2 安全な町

- ・住民による地域のパトロール体制の強化、交通マナーの浸透
- ・歩道が十分に確保されているかチェックし整備する(学校周辺を集中的に)。
- ・街灯を増やす。

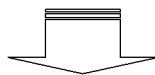
3 活気のある町

- ・TPP参加を見越し、農産物を中心とした特産品を売り出す。
- ・(外国人)観光客を呼び込む

4 情報の共有と個人の意識の向上

- ・長野県のことを良く知る(相手を理解するにはまず自分を知ることが大事)。
- ・学校で長野県を学ぶ授業があればいい。
- ・お互いにコミュニケーションを取る。
- ・長野県民であるという意識を持ち、長野県をどんどんアピールする。

安全、便利で活気のある町の延長に、外国人に優しい町がある。それを踏まえたうえで、言語や文化の違いからくる問題をサポートしていく。



目指す姿(キャッチフレーズ)

Know Yourself

～外国人にとって住みやすい県にするために～

4班

若者視点を活用した県づくり

～信州の未来を支えるために、私たちから発信しよう～

15

今、学生が感じていることは……。

- 公共交通機関の運賃が高く、本数が限られている。
- 国立大学の数が少ない。
- 寮は2人1部屋なのでプライバシーなど気を使う。
- 大学生協の商品価格が高め。
- 学ぶ場の環境設備が十分でない。
- 学食を毎日利用したいが、高いと感じる。
- 地域社会と学生との関わり・連携が少ない
- 大学で学んだことを活かせる就職先が少ない。
- 就職活動と学業を両立させることの難しさ。
- 長野県内(特に地元)で就職したいが、雇用数が少ない。
- 外国籍児童・未就学児童・不登校に対する支援が不十分。

16

不満ばかり(?)になってしまったけれど…。

良いところだって沢山ある長野県!!

視点を変えて考えてみよう!



17

他県に誇れる長野県の強み

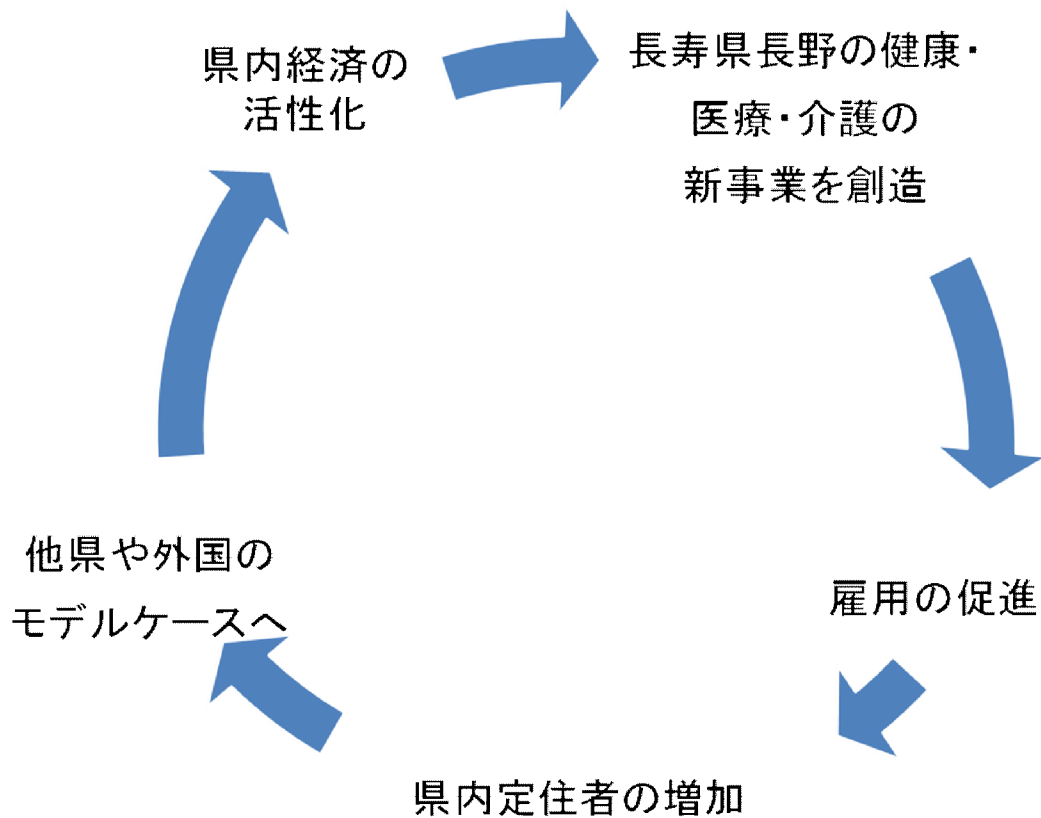
- 健康長寿県(平均寿命が男性全国1位、女性全国5位)
- 高齢でも元気に暮らしている人が多い(高齢者就業率が全国1位)
- 製造業(ものづくり)の技術力が高い。
- 美しい自然環境(山・河川・森林・空気)に恵まれている。
- 都会のように賑やかではないが、暮らしやすい環境がある(落ち着いた心豊かな暮らしができる)
- 農産物が豊富で、新鮮で美味しい食材が手に入る。
- 長野県で就職したいと希望している若者が多い。
- 地域ごとに特色がある暮らし(食・伝統行事・方言など)

18

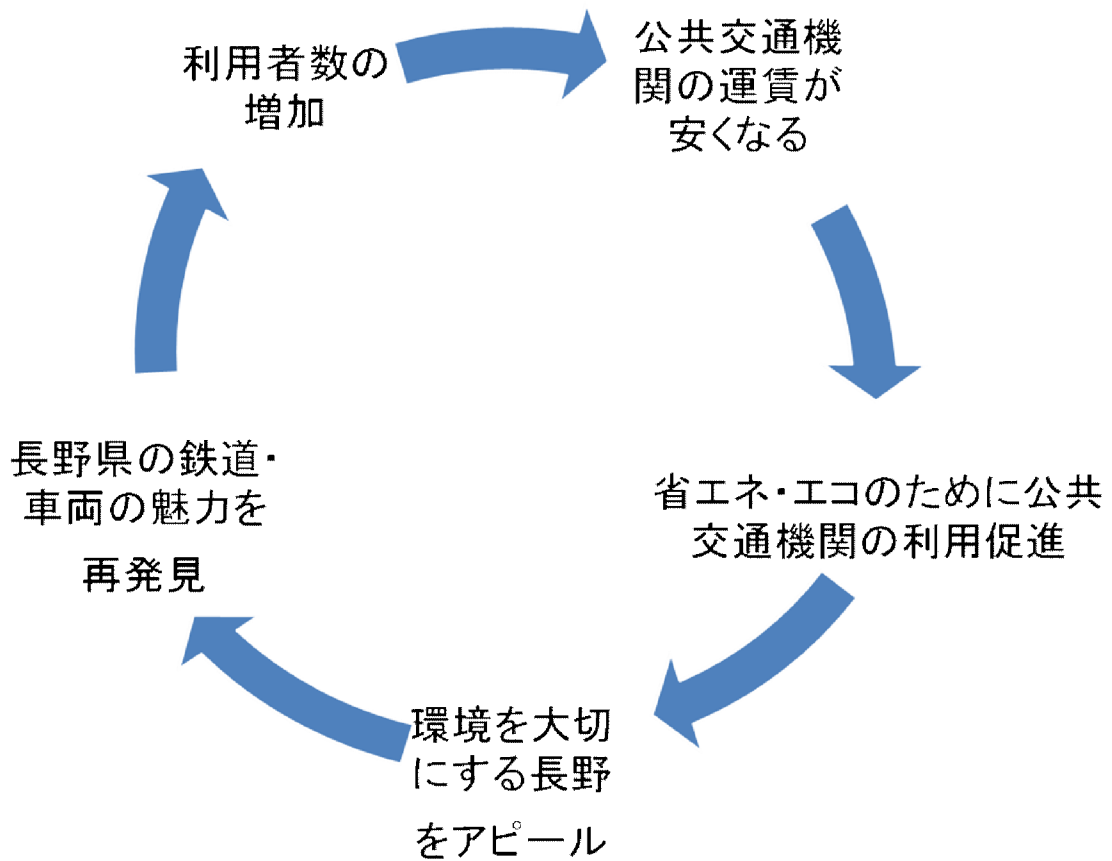
長野県の強みを活かした 良い循環を創る



19



20



21

課題からみえてきたのは

学生が積極的に地域と関わる必要がある。(地域社会の課題・問題を、自らの事として捉えられるようになる)

その中から自分達が出来るとは何かを探し出す事で、新たな発見・創造に繋がっていく。そのためには、物事の成り立ちや背景をより深く知ることが重要！！

理由の「見える」化を更に進める取り組みが求められる。

22

提案として

- 学校教育の場で地域の課題・問題について調べ考えて、議論する学び学習のカリキュラムを増やす。
- 仕事や家族を持ってからでも学校で再び学ぶ時間が得られる制度づくり。
- 様々な社会的背景(年齢・国籍・立場)を持つ人たちが多様に学べる場と機会の提供。
- 学生の学びの成果を地域社会に還元する仕組みの強化。(新しい産業や企業の創造)